

幕末西洋砲術史料概要

| | |
|-----------|---|
| 1: 文書群番号 | 082008 |
| 2: 文書群名 | 幕末西洋砲術史料 |
| 3: 出所 | - |
| 4: 家業・役職等 | - |
| 5: 地名 | - |
| 6: 行政区分 | - |
| 7: 歴史 | 砲術とは大小の銃器・砲の射撃、および火薬に関する知識・技術を総合的に学ぶもので、近世初期から武芸のひとつとして流派が多く生じた。幕末、幕府・大名が国内・領内の鉄砲整備や砲台築造を急ぎ西洋技術を積極的に導入、従来の和流砲術にかわって西洋式が主流となっていく。尼崎藩は西洋式砲術として高島秋帆の鉄砲術を採用、文久期以降に高島流鉄砲による農兵訓練や銃隊編成を実施し、大高洲新田など五カ所に砲台を築造した。 |
| 8: 伝来 | 昭和57年（1982）4月古書籍商より購入、平成16年（2004）3月に整理・目録作成を完了した。 |
| 9: 史料入手先 | 古書籍商 |
| 10: 点数 | 6点（目録件数6点） |
| 11: 年代 | 近世（幕末頃） |
| 12: 構造と内容 | 本文書群は幕末の西洋砲術に関する書物（写本）と、西洋式砲台の図面である。前者の『砲要集成 前篇』は当時の新式鉄砲や砲台の図面・仕様・鑄造法、火薬の製法や砲術訓練の事例などを記したもので、尼崎関係では武庫川表でのモルチール砲（西洋式大砲）試射訓練の記事がある。後者は西洋砲台の全体図および砲台内各部分（陣営・火薬庫など）の図面類である。いずれも砲台の名称や築造年代、図面の作成年代について記載はない。 |
| 13: 関連史料 | - |
| 14: 閲覧条件 | 原本 |
| 15: 作成者 | 松迫寿代 |